

平成30年度 第1回 国見町子ども・子育て支援推進協議会 会議録

日時 平成30年10月3日(水)
午後1時30分～午後2時58分
場所 国見町役場 中会議室(3階北)

《出席者》9名

委員：紺野由美、中村裕美、今村幸子、藤田誠也、柴田千賀子、藤田喬士、
菊地勝彦、山中啓嗣、八巻忠一

(欠席：樋口美樹、菊地純子、菊地沙織、鈴木智子)

事務局：岡崎教育長、中田幼児教育課長、石澤補佐、佐藤主任主査

進行：中田課長

1. 開会

2. 委嘱状交付 9名(4名欠席)

3. 町長あいさつ

太田町長：今日は、子ども子育て推進協議会に、本当にお忙しい中ご出席いただき、また委員としてご参加いただき心より感謝申し上げます。また、皆様方には日頃の町の子育て支援事業にご協力いただき感謝申し上げます。さて、ご案内のとおり、わが町の状況は超少子高齢化社会です。国見町の子育て支援はオールラウンド型で対応し、個別で対応できることが少ないです。小さい町ですから財源の問題もあり、オールラウンドに対応できることを行うというスタンスをベースとして色々とやっております。放課後児童クラブですとか、道の駅にある子育て支援センターつながる一むなど町全体、皆様でできることを中心に今やっております。第二次子ども子育て支援事業の計画作りなどについても、皆様からコメントいただきたいところがあります。日頃、会議のあいさつで、子どもがそこにいれば、子どもは国見町の宝だよと言っておりますが、昨年度生まれたのが約30人と大変少なく、しっかり宝を守ろうと、そのことを踏まえていただき、あらためて委員の皆様に対し、ご出席いただきましたことに心から感謝申し上げますとともに、皆様のご支援のほどよろしく申し上げます。

4. 役員選出

事務局案を提示、会長に柴田千賀子委員、副会長に八巻忠一委員が選出された。

5. 会長あいさつ

柴田会長：それでは、僭越ではございますが、只今ご指名をいただきましたので、本協議会の会長、そして本日の議事を進行させていただきます。仙台大学の柴田千賀子と申します。町長もおっしゃったように、子どもたちを取り巻く環境は国を挙げて揺れております。良い方に揺れるとうれしいですけれども、なぜか議論はされるけれども子どもの側にたった議論というのはなかなかされにくいという状況にあります。問題が起きたときには子どもたちに焦点が向けられるが、その問題が少し緩んでくると、また違うところに焦点が行くと感じています。本当に子どもの側に立った議論というものはどうしたらできるのか、ということを私は大学の中で学生と研究者と共に議論しておりますので、こういった視点を会議の中でも少し提案させていただいて、また委員の皆様からの貴重なご意見をより子どもの側に反映できるようにお話を深めていけたらと思っております。微力ではありますが、どうかよろしく願いいたします。

6. 議題

(1) 平成30年度子ども・子育て支援事業の取り組み状況について

事務局より取組状況を説明

柴田会長：こんにちは赤ちゃん事業で、未実施の家庭のうち保護者からの希望が出されなかったところがあるとのこと。たいへんデリケートな問題だと思うが、積極的に希望しない家庭にこそ課題が見えてくるという事例も多くあり、差し支えなければ、該当者について今後実施の可能性があるかど、事情を把握していれば教えてほしい。

事務局：この事業は保健福祉課保健係で実施しており、詳細は把握できてしていないが、この事業を希望されなくても、その後の定期検診等で保健師は関わっていくことができるので、つながりについては、確保されていると認識している。

藤田喬委員：くにみもたん広場や木育広場などでのイベントの周知はどのようにしているのか。

事務局：町内への周知が基本だが、町外だと毎週金曜日10時から放送されている、ふくしまFMのももたんFMで紹介しており、町ホームページ、教育ポータルサイトやポスターなどを公共施設に掲示する等、町外の周知はこのような形になる。

八巻委員：木育広場の利用数について減少傾向が見られるが、要因はあるのか

事務局：昨年5月にオープンし、夏休み前までがピークだった。その後減ってきているが、道の駅に来たお客、あとは、またそこで遊ばせたいというリピーターもおり、利用者が固定化されつつあると思う。木育広場は、未就学児対象の施設なので、体の大きなお子さんにとっては物足りなく、一緒に遊ばせるのは危険を伴うので、そのようなご家族にはももたん広場を紹介している。小さな子ども向けの施設であるということが認知された結果だと思う。

柴田会長：今後も状況を見守っていただき、何かあれば情報を提供してほしい。

(2) 平成31年度幼稚園保育所児童募集について

事務局より「募集のしおり」説明

柴田会長：国見町では、保幼少中連携という取り組みを行っている。年齢できっちりと区切りをつけるというスタイルも、全国的にはそう多くはないと思われる。保護者の立場からこのことについて何かあればお話しいただきたい。

紺野委員：特に不都合は感じておらず、先生方との関係もスムーズであると感じている。

藤田喬委員：藤田保育所の定員について、今後見直す予定はあるのか。

事務局：今年度は途中入所者もあり、最終的には定員に近づくとと思われる。次年度以降は、29年度の出生数が少なく、今年度も30人程度の見込みであり、今後予想される出生数は30人前後とみている。定員を見直しという考えもあるが、それとともに幼稚園と統合する形で認定子ども園とする話も出てくるのかと思われる。すぐに定員を減らすということではなく、認定子ども園に移行させることも併せて考えているということ。また、広域入所に関する問い合わせも増えてきており、町外から国見町へ通勤している方に対応することも考えなければならない。

柴田会長：現時点で、広域入所希望者はいるのか。

事務局：昨年まで定員であったため、今のところはいない。現時点の定員では町民優先の枠になる。現況を鑑み、町内の入所者が少なくなれば、受入枠を変えることになるとと思われる。

(3) 子育て支援（応援）ガイドブック改訂（案）について

事務局より資料を説明

中村委員：予防接種のページについてだが、藤田病院小児科の先生は、予防接種の時期を、表を作成して管理してくれる。クリニックなどを利用している家庭でも、このようなものがあれば、予防接種の順番やいつ受けるか、どの予防接種と組み合わせでいいものかが分かるものがあると重宝する。

事務局：ご意見を参考に、保健福祉課と協議したい。

柴田会長：他自治体のガイドブックでは、例えば子どもが汚したりしても良いように耐水性の紙を使っているものなどもある。子育て世代に優しい町づくりのひとつの象徴として、手に取りやすい、見た目や内容など充実したものにしていきたい。

事務局：本日の資料は暫定版である。体裁等については予算の範囲内でできるかぎり対応したい。なお、ガイドブック改訂原案について、ご意見等ある方は今月中に幼児教育課まで、電話またはFAX、メール、何でも構わないので、お寄せいただきたい。

(4) 第二次国見町子ども・子育て支援事業計画策定について

事務局より内容説明

柴田会長：アンケートを行う予定とあるが、量だけではくみ取れないニーズにも気を配っていただくようお願いしたい。また、この機会に、多くの皆様からご意見をお寄せいただきたい。近年では、利用者側のニーズも多様化しており、現場としてはマッチングに苦慮していると思われるが、子育て支援事業の現場サイドの声をお聞かせ願いたい。

藤田誠委員：国見子どもクラブにおいても、利用者のニーズは多様化している。例えば、学習支援にしても、保護者の求めるレベルは様々ではない。また、小学校との連携についても、どのレベルまで情報共有をすべきか試行錯誤している。

山中委員：社会福祉協議会の現状としては、子育て事業よりも、町民全体の社会福祉や高齢者向け事業が圧倒的に多い状況にある。今後、社協としても関連する分野では町と連携していきたい。

菊地勝委員：少子化の中にあって、公立藤田総合病院には常勤小児科医が2名おり、これはこの辺りでは珍しいことである。多少のことであっても、不安を抱えて悩むよりも、積極的に利用し不安を解消していただきたい。

(5) その他

柴田会長：議題に関する以外に、委員の皆様からお話したいことがあればお寄せいただきたい。

八巻委員：虐待防止のため民生児童委員では食材を持ち寄り、子どもたちと一緒にのびのびと食事をする事業などに取り組んでいるが、この協議会では虐待防止などに関する議論は取り上げないのか。

事務局：町としての制度、施策だけではなく NPO など様々なサービスがあり、その中でも町で取り入れているものは、子育てガイドブック「のびのび」にほぼ載っている。子どもも家庭も多様化し、望ましいあり方とニーズを掴むため必要な議論があれば取り入れていく。

教育長：今回から、認定こども園の代表として新たな方に委員として加わっていただいた。せっかくの機会なので、認定子ども園というものの、その良い点や課題についてお話を伺いたい。

藤田喬委員：認定子ども園というのは、幼稚園と保育園が一緒になった施設と捉えていただいて差し支えない。役割として、一つは子どもに教育・保育を施すこと、もう一つは、地域の子どものための子育て支援センターという役割。私がいる認定こども園は、幼保連携型、つまり幼稚園と保育園の良いところを合わせた施設であり、施設もこの二つを合わせた規模になる。

良い点は、保育所3年、幼稚園3年の合計6年間、一貫した教育ができること。一方、課題としては、施設が大きくなる分、運営に必要な職員数の確保が難しいこと。朝の7時から夜の7時まで開園するため、先生方はシフト

制での勤務となり、現場は忙しい。また、就労支援としての役割もあり、基本的に気象には左右されず、台風や大雪などの悪天候でも開園しなければならない。

柴田会長：事務局から連絡事項はあるか。

事務局：当協議会は今回が第一回目、二回目は来年の2月4日月曜日、午前10時からの開催を予定している。議題は、来年度の応募状況、今年度の子ども子育て支援事業の実施報告、子育て支援（応援）ガイドブック原稿の確認、子ども子育て支援事業計画のアンケート（案）を委員の皆様にご確認いただき、3月中にアンケートを行い、来年度の4・5月に結果をお示ししたい。31年度のこの会議の日程も第二回目の際にお示ししたい。

7. 閉会

教育長：委員の皆様には、お忙しい中熱心な審議をいただきましてありがとうございます。

再来年より新しい計画に入るところで、委員の皆様におかれましては、これからも貴重なご意見をお寄せいただければありがたいと思います。本日はありがとうございました。

（14時58分会議終了）